

作所 SDGs宣言

開発目標（SDGs）に賛同し、
行っていく事を宣言します。

2021年5月1日

小澤製作所 代表取締役 香川 健二・澤井 大輔

と向けた取組み

と向けた取組み

と向けた取組み

と向けた取組み

と向けた取組み

と向けた取組み

と向けた取組み

と向けた取組み

と向けた取組み

と向けた取組み

と向けた取組み

と向けた取組み

と向けた取組み

と向けた取組み

と向けた取組み

と向けた取組み

と向けた取組み

と向けた取組み

と向けた取組み

と向けた取組み

と向けた取組み

と向けた取組み

と向けた取組み

と向けた取組み

と向けた取組み

と向けた取組み

と向けた取組み

と向けた取組み

と向けた取組み

と向けた取組み

と向けた取組み

と向けた取組み

と向けた取組み

と向けた取組み

と向けた取組み

と向けた取組み

と向けた取組み

と向けた取組み

と向けた取組み

と向けた取組み

と向けた取組み

と向けた取組み

と向けた取組み

と向けた取組み

と向けた取組み

と向けた取組み

と向けた取組み

と向けた取組み

と向けた取組み

と向けた取組み

と向けた取組み



第二工事部マネージャー
兼 資材部マネージャー

竹内 謙治

竹内謙治が株式会社小澤製作所の一員となったのは、30歳になってすぐの頃。以来10年以上にわたって前を続け、現在は第二工事部のマネージャーと資材部のマネージャーを兼任しながら日々活躍している。今日までの歩みを振り返りながら、仕事に対する思いを聞いた。

小澤製作所との出会い

学生時代は機械科を専攻していた竹内。専門的な知識を身につけるかたわら、カメラを手に写真を撮ることも熱中していた。同じ趣味をもつ友人とともに、目の前に広がる風景を写真

に収める時間は、かけがえないひとときだった。現在はカメラを手にする機会はないものの、当時撮影した景色の数々は、大切な思い出として胸に刻まれている。

大学卒業後は、生まれ故郷の群馬県を離れ、東海地方に拠点を置く会社へ入社した。「設計に携わってみたい」という希望を抱いて就職したが、任されたのは現場管理の仕事だった。プラントや天然ガスの配管工事など、さまざまな現場に立ち合いながら、一歩ずつ経験を積み重ねていく。そうしておよそ8年が経った頃、さらなるステップアップを口指して転職を決意し

た。新たな職場を探していた折に出会ったのが小澤製作所だ。

前職とのギャップを

感じながらも、
一歩ずつ前へ

当時の小澤製作所は、社長の香山・澤井を含めてわずか4名。このメンバーで、すべての業務を行っていた。それまで竹内が働いていた会社は、5000人の従業員が所属する規模だったため、面接に訪れた際は、小さな事務所を見て衝撃を受けたという。面接はスムーズに進み、結果は即採用。こうして竹内は小澤製作所の一員となり、次の一歩を踏み出したのである。

道のりは決して平坦なものではなかった。業界的には前職と同じではあるものの、少人数体制だけに、任される仕事の量は格段に多い。先輩社員の背中を追いかけ、目の前の仕事に懸命に取り組んでいく毎日。一つの仕事をやると覚えられたと安心する間もなく、翌日にはまったく異なる仕事が続いている。目の回るような忙しい毎日だった。こうした一つひとつの経験を糧にしながら、今日まで歩みを進めてきた。

「挑む」「創る」「応える」を胸に、さらなる飛躍を

マネージャーに就任したのは2020年。責任ある立場を任せられ、身を引き締

めた。第一工事部と第二工事部が分かれたのも、ほぼ同時期だ。小澤製作所は大きな転換期を迎え、積極的な新規開拓に乗り出した。新たなつき合いがはじまった顧客先は、およそ100社にものぼる。業務の幅はそれまで以上に広くなり、忙しくも充実した毎日だ。

「お客様の要望を、少し



ずつ着実にカタチにしていく……それがこの仕事の魅力だと考えています。落ち着いてやりがいや達成感を噛みしめる余裕はありませんが、今後も、一つひとつの仕事に誠意をもって向き合っていく所存です。

周囲と力を合わせてアイデアを出し合い、業務の効率向上のために力を尽くす竹内。これからも躍進を続け、小澤製作所の発展に貢献していくに違いない。



お客様からもらった嬉しいお言葉

お客様の要望とチーム事情……全体のバランスを見て早く作業を終えなければいけないプレッシャーを乗り越えたときに掛けられた言葉とは？

「小澤さんと良かった、ありがとう!」という言葉です。



第一工事部 部長

たけの たくや
前野 拓也さん

2021年中に起こった案件でした。当社がメンテナンスを請け負っている工場の機械が不調になり、職人さんと修理作業に向かいました。ほぼ1年中24時間稼働している工場で、生産がストップするとお客様のエンドユーザーにご迷惑をお掛けすることになってしまいます。私達の就業時間は朝8時から夕方17時ですが、24時間体制の工場には関係ありません。当日中に終わらせてほしいという要望であれば、それに応える必要があります。現場監督として、職人さんのスケジュールを無理のないように調整しながらお客様のご期待に沿えるよう、いかに早く質の良い作業ができるかが問われました。全員の協力のおかげで無事に作業が終えられたときに感謝の言葉をいただいて、それまでの疲れが吹き飛ばぶような気持ちでした。

この言葉を受けて

納品した製品のメンテナンスに行くことが多いので、不具合を直す作業に感謝していただくことが当たり前だと思って働いているわけではありません。ですから、温かい言葉をいただくことが本当にありがたいと感じます。必要とされるからこそ、この仕事をする意義があるのだと思っています。

「助かったよ、ありがとう」という言葉です。



第一工事部 設計部 マネージャー

たけむら ゆきお
竹村 幸起さん

そもそも仕事ですから、いつも当たり前のことをやっているのです。ただ、突発的なことに対処した際に言われる「ありがとう」は、普段のものとは違うように感じます。お客様の所では常に工場が動いていますので、その日に行って急に「これをお願いしたい」という、イレギュラーなものがあります。お客様にもさすがに無理だとはわかってはいても、やらないといけなことでですから、頼まれます。そういった突発的なことをなんとかご希望どおりの時間に終わらせることができた際には、いつものありがとうではなく、いつも以上に助かったというお気持ちがあり嬉しく思います。また、私は調整をする役目で、実際に手を動かすのは職人さんです。無理をなんとか取めてくださり、二重に良かったなど、報われた感じがします。

感謝されて思うこと

沢山数をこなしている中で、過去に似たような事例があったことを思い出します。その際にもっとこうできるのでないかなどアップデートできるので、感謝の言葉をいただいたからだけではなく、自分としても気持ちの良いものです。

小澤製作所は「SDGs 宣言」をしています!

当社は国連が提唱する「持続可能な開発目標 (SDGs)」に賛同し、SDGsの達成に向けた取り組みを行っていくことを宣言します。



詳しくはHPへ



キーワード 本・縁・愛

入社9年目の温水さんに、いずみパーキングの歴史をお伺いしました！
知られざる設立秘話や、いずみパーキングが駆け抜けてきた壮絶な過去が明らかになります！

いずみパーキング設立秘話

昭和48年に創業されたいずみパーキングは、小澤製作所の創業者の奥様のご実家が所有されていた土地を使い、スタートしました。当時、中区東桜界隈はお寺が数多く立ち並ぶ寺町で、空いている境内地の一部をお借りして駐車場業務をスタート。その後、立体駐車場が2棟併設された自社ビルを建てて駐車場の管理、運営をしてきました。

創業当初の様子

当初から少人数で経営していたと聞いています。創業者の親族含む6名程で駐車場を切り盛りしていたそうです。その後、創業者が引き抜いた生命保険の営業の方が、小澤製作所の2代目の社長として据えられ、営業社員も数名加わり、段々と活気づいてきました。しかし、いずみパーキングはもちろん、製造部門も見なくてはいけないという多忙さに、2代目社長に駐車場部門をのれん分けをし、株式会社いずみパーキングを立ち上げ、どんどん成長しているようです。いずみパーキングの本家は小澤製作所からスタートしています。



いずみパーキング
新栄営業所
駐車場運営管理部門
部長
ぬくみず たもつ
温水 保さん

BRICKYARD Recommended

イベントご利用のご案内



Customer's Voice

BRICKYARDでは昨年12月、いつもご利用頂いているお客様主催のポップアップイベントが開催されました。プリザーブドフラワー作家様のお客様によるイベントは、スタジオ内も華やかな空間となりました。BRICKYARDでは、今年は撮影だけでなくこういったイベント、ポップアップでのご利用もしていただけたらと思っています。皆さま2022年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

かやま さえき
文章：BRICKYARD 香山 冴季さん